

タンザニアから見つめる自分		北村 佳子 横浜市立上の宮中学校
◆担当教科：美術科	◆実践教科：美術科、英語	◆時間数：1年生5時間、2年生5時間
◆対象学年：1、2年生	◆対象人数：377名	

◆ 指導案

○実践の目的

- ・タンザニアの生活や伝統文化をとおして、日本との違いや共通する想いを感じるようにする。
- ・タンザニアの人たちの考えを知り、今の自分を見つめ直してこれからの自分について考えるようにする。
- ・国際的な視野を養い、これからの自分たちの行動について考えるようにする。
- ・美術がもつ役割や可能性について考えるようにする。

○授業の構成

【1年生】

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	<p>テーマ：タンザニアって どんなところ？</p> <p>ねらい：タンザニアについてのイメージを考え、興味を引き出す。</p>	<p>(1) 白地図でタンザニアの位置をあてる。</p> <p>(2) タンザニアについて知っていることやイメージを書き出す。</p> <p>(3) アンケートに答える。</p>	<p>(1) 白地図</p> <p>(2) ワークシート</p>
2	<p>テーマ：めざせ！ カンガマスター！</p> <p>ねらい：カンガの使い方を試しながら、生活に密着した伝統文化について考える。</p>	<p>(1) カンガについて知る。</p> <p>(2) カンガやキテンゲを実際に用いて、その使い方を考える。</p> <p>(3) タンザニアの人々がカンガをどのように使っているかを知り、生活に密着した伝統文化について考える。</p>	<p>(1) カンガ、キテンゲ</p> <p>(2) ワークシート</p> <p>(3) パワーポイント</p> <p>(4) 水汲み用のバケツ (10ℓ、20ℓ)</p> <p>(5) タンザニアで撮影した写真、購入したカンガの使い方の本、CD</p>
3・4	<p>テーマ：もように想いを込めて</p> <p>ねらい：カンガのもようをデザインすることを通して、人々の願いや想いについて考える。</p>	<p>(1) カンガのもようをデザインする。</p> <p>(2) カンガセイイングで自分の願いや想いを表現する。</p> <p>(3) ティンガティンガ絵画やマコンデ彫刻などの美術作品を鑑賞する。</p>	<p>(1) カンガ、キテンゲ</p> <p>(2) ティンガティンガ</p> <p>(3) マコンデ彫刻</p> <p>(4) ワークシート</p> <p>(5) 「アフリカンドレス」 「アフリカンリビング」</p>

5	<p>テーマ：タンザニアから 見つめる自分</p> <p>ねらい：タンザニアの人々の生活や伝統文化を学ぶことを通して、自分の生活をふりかえり、これからのことを考える。</p>	<p>(1) タンザニアの人々の生活を知り、日本との共通点や違いについて考える。</p> <p>(2) タンザニアの子ども達のアンケートの答えと自分の答えを比べ、共通点や違いについて考える。</p> <p>(3) これからの自分の生き方について考える。</p>	<p>(1) カンガ、キテンゲ</p> <p>(2) ティンガティンガ</p> <p>(3) マコンデ彫刻</p> <p>(4) ワークシート</p> <p>(5) タンザニアで撮影した写真、アンケート</p>
---	---	--	---

【2年生】

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	<p>テーマ：タンザニアって どんなところ？</p> <p>ねらい：タンザニアについてのイメージを考え、興味を引き出す。</p>	<p>(1) 白地図でタンザニアの位置をあてる。</p> <p>(2) タンザニアについて知っていることやイメージを書き出す。</p> <p>(3) アンケートに答える。</p> <p>(4) タンザニアの子ども達への手紙を日本語で書く。</p>	<p>(1) 白地図</p> <p>(2) ワークシート</p>
2・3	<p>テーマ：タンザニアの友達へ</p> <p>ねらい：英語で手紙を書き、タンザニアへの興味を高める。</p>	<p>(1) タンザニアの子ども達への手紙を英語で書く。</p> <p>(2) 手紙のないように合わせてイラストを描く。</p>	<p>(1) ワークシート</p> <p>(2) 清書用紙</p>
4	<p>テーマ：めざせ！ カンガマスター！</p> <p>ねらい：カンガの使い方を試しながら、生活に密着した伝統文化について考える。</p>	<p>(1) カンガについて知る。</p> <p>(2) カンガやキテンゲを実際に用いて、その使い方を考える。</p> <p>(3) タンザニアの人々がカンガをどのように使っているかを知り、生活に密着した伝統文化について考える。</p> <p>(4) ティンガティンガ絵画やマコンデ彫刻などの美術作品を鑑賞する。</p>	<p>(1) カンガ、キテンゲ</p> <p>(2) ティンガティンガ</p> <p>(3) マコンデ彫刻</p> <p>(4) ワークシート</p> <p>(5) 「アフリカンドレス」「アフリカンリビング」</p>
5	<p>テーマ：生きるためのデザイン</p> <p>ねらい：タンザニアの人々の生活や伝統文化を学ぶことを通して、自分の生活をふりかえり、これからのことを考える。美術の持つ力や可能性について考える。</p>	<p>(1) タンザニアの人々の生活を知り、日本との共通点や違いについて考える。</p> <p>(2) 「Qポット」について知り、生きるためのデザインとは何か考える。</p> <p>(3) タンザニアの子ども達のア</p>	<p>(1) カンガ、キテンゲ</p> <p>(2) ティンガティンガ</p> <p>(3) マコンデ彫刻</p> <p>(4) ワークシート</p> <p>(5) 美術科教科書</p> <p>(6) タンザニアで撮影した写真、アンケート</p>

		<p>アンケートの答えと自分の答えを比べ、共通点や違いについて考える。</p> <p>(4) これからの自分の生き方について考える。</p>	
--	--	--	--

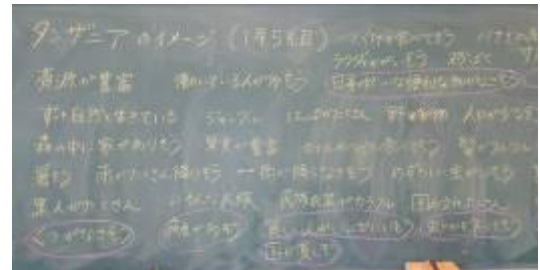
◆ 授業の詳細

【1年生】

1時間目「タンザニアってどんなところ？」

タンザニアという国がどこにあるのか、ワークシートの白地図に印をつけてみるように伝えた。ほとんどの生徒がどこにあるのか知らなかった。テレビに映した地図で場所を確認し、タンザニアにはどんな人が住んでいるのか、何があるのかなど、イメージを自由にワークシートに書き、一人1つ挙げて板書した。「暑い」「自然が多い」「野生動物がたくさんいる」「果物がたくさんある」「資源が豊富」「いろんな民族がいる」「人間関係のつながりが深そう」などのイメージを出していたが、中には「貧しそう」「水や電気がない」「食べ物があまりない」「学校に行けない人がいると思う」「内乱がありそう」「病気が多い」などのマイナスイメージも出てきた。

その後、アンケートをワークシートに記入した。質問項目はタンザニアの子ども達に聞いたものと同じ「自分にとって大切なもの」「今、一番ほしいもの」「将来の夢」とした。この時間にはこちらから位置以外のタンザニアの情報は一切与えず、生徒が自由に発想できるように心がけた。



2時間目「めざせ！カンガマスター！」

タンザニアで作ってもらったカンガのスカートを着て授業を行った。普段の見慣れた姿との違いに、教室に入ってくるなり声をかけてくる生徒が多かった。

授業の最初にカンガやキテンゲについて簡単に紹介し、タンザニアの人々がどのように使っているのか考えることを伝えた。タンザニア在住経験のある同僚の協力で、カンガとキテンゲを人数分用意することができたので、生徒一人一枚のカンガを実際に使いながら考えるようにした。生徒たちは服として身に付けたり、荷物を包んだり、友達と交流しながら楽しみながら思い思いの使い方を試していた。この「楽しむ」という経験が生徒の興味をより引き出すことにつながったと感じた。

その後、タンザニアで撮影した写真を用いて現地の人たちの使い方を紹介した。生徒たちは荷物を頭に載せて運ぶ人々の姿に驚嘆していた。その際、バケツを頭に載せて水を運んでいる子どもの写真を取り上げ、現地の水事情に触れた。実際に20ℓの水が入ったバケツを用意し、希望する生徒には補助をしながらバケツを頭に載せる体験をさせて感想を聞いた。生徒からは「首と頭が痛くて長い距離を一人では運べない」という言葉が出てきた。実物の与える影響の強さを感じた。また、自分たちよりも年下の子ども達が家の手伝いをしている姿に感心する声も上がっていた。



水を運ぶ子ども達



マサイ族の親子



街のカンガ屋

授業の様子



3・4 時間目「もように想いを込めて」

カンガに書いてある言葉「カンガセイイング」をいくつか紹介し、どんな想いが込められているのかを考えるようにした。その後、自分がカンガを使うなら、どんな模様がいか考えてデザインすることを伝えた。「カンガセイイング」には自分が好きな言葉や願い事などを書くようにした。

生徒は自分の願いなどを思い思いに描き、描きながら形や色の組み合わせに工夫して表現していた。また、タンザニアのカンガの模様について改めて見直し、「どうして蛇口の模様なんだろう。」「明るい色が多いのはなぜだろう。」などと言っている生徒もいた。

5 時間目「タンザニアから見つめる自分」

1 時間目に考えたタンザニアのイメージについてのワークシートを配り、自分が考えていたことを振り返った。その後、タンザニアの町の様子や人々の暮らしの様子を現地で撮影した写真を用いて紹介した。日本との共通点や違いがわかりやすい写真を用いるようにした。最初に抱いていたタンザニアのイメージと比べてみてどうかということを考えながら見るように促した。

タンザニアの子ども達にとってアンケートを紹介して、自分と同じところや違うところを考えた。「自分にとって大切なもの」という問いに対して、日本の生徒は「家族」「命」「友達」または自分が所有している物などを挙げていたのに対して、タンザニアの子ども達はほとんどが「勉強」「教育」と答えていた。また、「今、一番ほしいもの」に対してタンザニアの子ども達のほとんどが「教育」と答えていたことに、生徒はなぜだろうと驚いていた。タンザニアの子ども達には学校へ行く理由も尋ねていたが、そこに「家族のため」「勉強して暮らしをよくするため」「夢を叶えるため」という答えがあり、それを生徒に紹介した。アンケートをとる時に名前や年齢を聞いたことにより、自分と同じまたは年下の子ども達がどのように考えているかということがよりリアルに感じられたようだった。アンケートを書いた子どもの写真があると、なおよかったと思った。

○生徒の感想から

「タンザニアは思っていたより明るい国だった。」

「草原がずっと広がっている国だと思っていたので、ビルがあってびっくりした。」

「日本の生活と違っていてびっくり！今、私たちができることはなんだろうと思った。」

「思っていたことと、当たっているところもあったけど違うところもあって、同じ国の中でも違うところがたくさんあっておもしろいと思った。」

「タンザニアはわりと日本と似ているような気がしました。」

「おとなになったら行ってみたいと思った。」

「自分達より年下の子が将来のことや教育について考えていることがすごいと思った。」

「タンザニアの子達のように、もっと家族や友達のことを考えられるようにしたい。」

「自分達は毎日普通に学校に通っているけど、これは当たり前ではないという意識をもって感謝しながら生活していきたいと思いました。」

「日本では手伝いをするのが嫌いな人が多いと思うけど、タンザニアの子ども達はみんなすすんで手伝いをしていて、心があたたかいなと思いました。」

「水や食べ物や物などを大切に最後まで食べたり使ったりするようにしたいです。」

「どうしてそんなに教育のことを言うのかなと思いました。」

「水をバケツに入れて頭で運ぶのはすごいと思ったけど、やっぱり水を遠くまでとりに行くのは大変だと思った。」

「生活が不自由でも、笑顔が絶えていないと思った。」

「カンガにはたくさんのもようや柄があって、どのくらいの種類があるのか知りたい！と思いました。」

「カンガはどのように使うか目的によって色々なことに使えるのがとても便利だと思いました。」

【2年生】

1時間目「タンザニアってどんなところ？」

1年生と同じように導入した。2年生は社会科でアフリカについて学んでいたこともあり、経済や資源、気候などに関するイメージが挙った。タンザニアの学校に行き、みんなの手紙を渡したいということ伝え、まずは日本語で手紙を書くようにした。また、アンケートにも記入した。

2・3時間目「タンザニアの友達へ」

英語科の協力で、タンザニアの子ども達への手紙を英文で書くことができた。手紙の内容までは指定しなかったが、それぞれが自分の好きなことや相手への質問など、工夫して書いていた。手紙には、内容に合うようなイラストを描いて仕上げた。

4時間目「めざせ！カンガマスター！」

1年生で実施した時と同様に、一人1枚のカンガを用いてその使い方を考えた。1年生よりもさらに工夫した使い方を発見した生徒が多かったように感じた。現地で購入したマサイ族の儀式音楽を流して雰囲気づくりをしたことも影響したのかもしれない。

授業の様子



5時間目「生きるためのデザイン」

1年生と同じように1時間目に考えたタンザニアのイメージについてのワークシートを配り、自分が考えていたことを振り返った。その後、タンザニアの町の様子や人々の暮らしの様子を現地で撮影した写真を用いて紹介した。タンザニアの子ども達にとってアンケートを紹介して、自分と同じところや違うところを考えた。

教科書に載っている「生きるためのデザイン」というページを読み、南アフリカ共和国で使われているドーナツ形の水タンク「Qドラム」を紹介した。約50ℓの水を子どもでも一度に運ぶことができる画期的なデザインである。「世界中の人々が快適に暮らせることこそ、デザイン活動の原点」「美術で学ぶ力によって、同じ地球で生きる人々のためにどんなことができるか」という言葉をしっかり考えてほしいということを伝えた。

○生徒の感想より

「カンガやティンガティンガ絵画など初めて見るものがたくさんあって、その土地によっていろんな文化や芸術があっておもしろかった。」

「自分たちは勉強が嫌だと思っている時もあるけど、環境が整っていて、勉強させてもらっていることに感謝しないといけないなと思った。」

「タンザニアの子ども達は自分だけのことでなく、将来世界で活躍することや家族のことを思っていて優しいなと思った。」

「不便な生活でもみんな協力し合って、ポジティブに生きていてすごいと思った。」

「少ない道具の中でもその1つ1つを工夫して使って生活している。」

「自分がタンザニアの環境にいたらどんなことを思っているのかなと思いました。」

「自分達の当たり前が当たり前じゃないことがわかった。」

「物を無駄にしないで、暮らしの違いについてよく考えたい。助け合いたい。」

「世界は広い。」

◆ 成果と課題

【成果】

まず、この研修に参加できたこと自体が一番の成果だと思う。自分の眼で見て、感じたこと、そこから生まれた想いは、授業者にとってとても大切なことだと考える。授業者の心から出てきた言葉は生徒に響く。この研修を通して私自身が世界に眼を向けるきっかけを得ることができたことが今回の成果だと思う。アフリカ＝貧しい国、かわいそうなどのイメージを持っていた生徒が少なくなかったが、今回の実践の中でタンザニアの良い面をたくさん見つけ、「いつか行ってみたい！」と言う生徒が多かったこともとても嬉しかった。

美術の教科書や資料集などにはアフリカの美術や文化についてはほとんど記載がない。しかし、そこには個性的な素晴らしい文化があるということを知るきっかけになったのではないかと思う。美術の持つ力が、人々が豊かに生きるために役立つ可能性について考えることが少しだけできたと思う。

【反省点・今後の課題】

今回の実践では、世界に眼を向けるというきっかけを作ることはできたが、その先の自分自身のことを考え、これからの自分の行動を考えるとところまでは十分に深めることができなかった。この授業の先に何を求めるかということのを再考したい。来年度は、新1年生にはカンガのデザインを色の学習とリンクさせて題材づくりをしたいと考えている。

また、学校の年間カリキュラムの中にどのように取り入れるかということが最大の課題だった。年間授業時数の少ない美術科の中だけでは実践に限界を感じた。開発教育の実践には職員の理解と協力が不可欠であるが、まだまだ認知度は高いとは言えない。教科の壁を越えてどのように実践していくことができるのか、開発教育を学校教育の中でどのように行うことができるのかをこれからも模索していきたい。

最後に、今回の教師海外研修を企画・運営してくださった田中浩平さん、宮本寿美さんをはじめとする JICA 横浜の皆様、ファシリテーターとして我々参加者を導いてくださったかながわ開発教育センターの木下理仁さん、現地の情報提供や滞在中の安全や健康などきめ細かい対応で支えてくださった我々の MALAIKA（スワヒリ語で天使）足立史子さんをはじめとする JICA タンザニア事務所の皆様、滞在中のサポートをしてくださったローザさん、学校訪問や市内見学を調整し、お手伝いくださった青年海外協力隊の皆様、そしてこの研修を通じて出会うことができた参加者の仲間達に深く感謝致します。

ASANTE SANA！！

◆ 参考資料

【現地で収集した資料】

カンガ、キテンゲ、ティンガティンガ絵画、マコンデ彫刻、マサイ族の CD、
子ども達にとってアンケート、写真

【引用文献】

「美術 2・3（上）教科書【生活の中に生きる美術】」	日本文教出版
「アフリカンドレス」「アフリカンリビング」	アフリカ理解プロジェクト編 明石書店
「KANGAS:101 USES」	Jeannette Hanby, David Bygott